

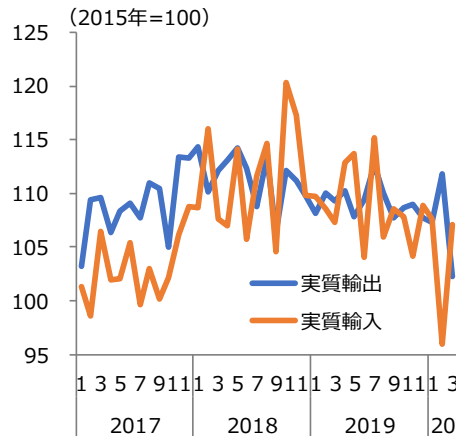
日本

貿易統計 (2020年3月)

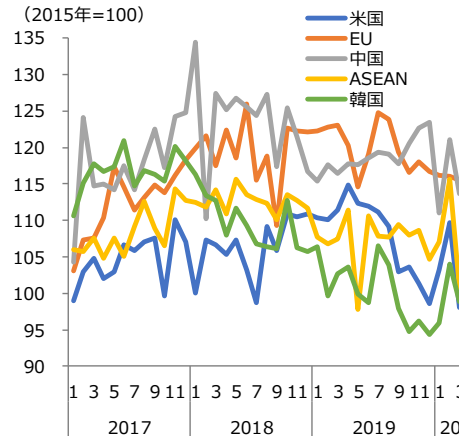
新型コロナウイルスで外需が縮小、輸出はさらなる減少を見込む

政策・経済研究センター
梶谷謙吾
03-6858-2717

1 実質輸出入

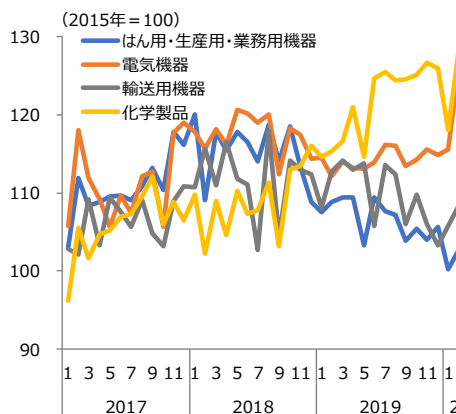


2 実質輸出：国別

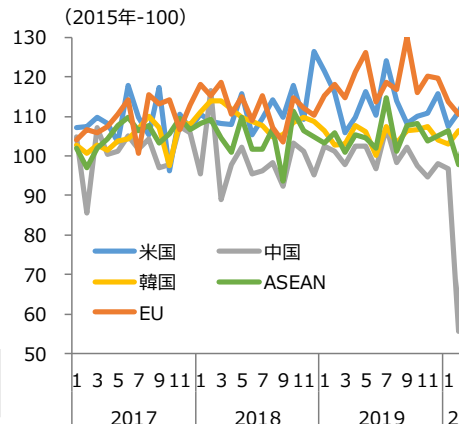


注：当社による季節調整値。20年1月以前のEUの値は、EUから英国を除いた値。
出所：財務省「貿易統計」、日本銀行「企業物価指数」より三菱総合研究所作成

3 実質輸出：品目別



4 実質輸入：国別



注：当社による季節調整値。20年1月以前のEUの値は、EUから英国を除いた値。
出所：財務省「貿易統計」、日本銀行「企業物価指数」より三菱総合研究所作成

評価ポイント

今回の結果

- 20年3月の実質輸出（当社による季節調整値）は、前月比▲8.5%、実質輸入は、同+11.6%（図1）。貿易収支（季節調整値）は、▲1,900億円。輸入は2月の大幅減から増加も、輸出は減少し、新型コロナウイルスによる外需縮小の影響が顕在化しつつある。
- 四半期（20年1-3月期）では、実質輸出（当社による季節調整値）は前期比▲1.2%で2四半期連続、実質輸入は同▲3.1%で3四半期連続の減少。
- 実質輸出（当社による季節調整値）を国・地域別で見ると、EU以外が大きく減少。米国向けは前月比▲10.7%の減少。米国向け輸出のシェアが高い輸送用機器、はん用・生産用・業務用機器が2桁減と大きく押し下げた。中国向けは、同▲6.1%。はん用・生産用・業務用機器、電気機器が大きく減少した（図2）。
- 品目別では、輸送用機器（前月比▲10.8%）、はん用・生産用・業務用機器（同▲9.4%）、電気機器（同▲9.4%）が大きく減少（図3）。
- 実質輸入（当社による季節調整値）を国・地域別で見ると、中国からの輸入が前月比+83.4%と大幅に増加（図4）。中国国内での経済活動の一部再開に加え、2月に輸入を予定していた分が3月になり輸入されたとみられる。

基調判断と今後の流れ

- 輸出は、新型コロナウイルスの感染拡大を受けた外需の縮小により、減少傾向にある。
- 先行きは、さらなる減少を予想する。新型コロナウイルス感染拡大による国内外の経済活動抑制により、世界経済の減少は避けられない。欧米での感染拡大は、3月中下旬以降急速に拡大しており、4月以降はさらなる減少が見込まれる。中国は経済活動を一部再開したが、世界的な需要が縮小する中で、生産の急回復は見込めない。外需の縮小に加えサプライチェーンの途絶が、輸出・生産の下押し圧力となるだろう。
- さらなる下振れリスク要因は、国内外での経済活動抑制の長期化だ。一部の国では経済活動再開に向けた動きがみられるが、感染の第二波、第三波が発生した場合、経済活動抑制の長期化が見込まれる。これらリスクが顕在化すれば、海外経済の減少、サプライチェーン寸断が長期化し、輸出は停滞するだろう。